

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年11月27日

【評価実施概要】

事業所番号	0171401201		
法人名	医療法人社団 かみゆのかわ医院		
事業所名	認知症高齢者グループホーム かみゆのかわ		
所在地	〒042-0914 函館市上湯川町38-14 (電話) 0138-59-3436		
評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成21年10月7日	評価確定日	平成21年11月27日

【情報提供票より】(平成 21年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 6月 1日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 5人
職員数	7人 常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算 3.28人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000円	その他の経費(月額)	23,000~33,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(38,000円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	250円
	夕食	450円	おやつ	250円
	または1日当たり	1,200円		

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	3名	男性	0名	女性	3名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	3名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	83歳	最高	88歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	かみゆのかわ医院・佐々木病院・富田病院・脳神経セントラルクリニック・山本歯科・藤原眼科・本間耳鼻咽喉科・川岸皮膚科
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、函館空港近くの、閑静な住宅街に立地している。運営者の旧住宅を改装して、利用定員が5名の、介護より生活に重点をおいた家庭的な雰囲気のある事業所である。家族と一緒にシーツ交換・洗濯片づけをしたり、居室での食事も可能であるなど、家族との絆を大切に支援している。母体法人が医療法人であり、複数の協力医と関係を密にしているため、本人と家族の安心につながっている。地域の人達との交流もあり、利用者の尊厳を守るよう努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である、鍵をかけないケアについては、現在、日中は鍵をかけていない。水分摂取量の記録は、30分ごとに記録して一覧表にして見やすくするなど、工夫、改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価作成については、全職員で意見を出し合い取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は事業所の一方的な報告にならないように、防火訓練終了後に消防署職員から話を聞いたり、介護の説明に音楽CDを利用するなど、地域住民や家族への理解が進むよう工夫をし、会議に参加し意見を言いやすい雰囲気をつくり、幅広い立場の人からの意見や要望を引き出すことにより、改善につなげている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時に意見や苦情を聞き、居室を2階から1階に移すなど、家族の要望に沿うように努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	利用者は、町内会の老人会旅行に誘って頂いている。コーラスボランティアによるミニコンサートには、近所の人達も参加して一緒に楽しんでおり、地域住民との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会との関わりを大切にし、介護より生活を重点においた事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の居間や台所など、職員の見やすいところに理念を掲示し、申し送りの時や月1回の会議の中で理念を確認し、全職員で共有化している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は、町内会が主催する老人会旅行に誘って頂いている。また、コーラスボランティアによるミニコンサートには、近所の人達も参加して一緒に楽しむなど、地域住民と交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者と職員は評価の意義を理解し、自己評価は全職員で作成している。前回の外部評価の改善点も、話し合っ改善に向け取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催している運営推進会議は、防災訓練終了後に消防署職員の話の聞いたり、介護関係のCDなどを取り入れて、地域住民や家族が理解しやすいように工夫している。評価の結果を公表して意見を聞き、サービスの質の向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者の来訪の際に、意見交換や情報の提供を受けている。また、市が開催する研修会に参加するなど、常に連携を取り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の生活の様子は手紙で家族に報告し、体調の変化については電話でその都度連絡して対応している。金銭管理については、毎月金銭出納簿をコピーし領収書を添えて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に意見を聞き、2階の居室を1階に移すなど、家族の要望に応えるように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	この2年間は、職員の異動はない。事業所は、利用者となじみの関係を大切に支援し、自然体のケアを心掛けて全職員が取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員の育成に理解があり、実践者研修やグループホーム協議会の研修に参加し、月1回の会議の中で口頭で報告しているが、記録は作成していない。	○	法人内外の研修会や勉強会の内容を、全職員が共有化するために、記録しておくことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会やブロック研修会などへの出席を通して同業者と交流があり、事例報告や、意見交換などにより、サービスの質の向上に活かしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用にあたっては本人と家族が事業所と一緒に訪問する機会を設けるなど、環境に徐々に馴染めるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の状態に応じて、掃除、炊事等と一緒にするなど、日常生活を支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動や表情から利用者の意向を把握し対応している。他の利用者の家族の来訪時に寂しそうにしている利用者には、さりげなく散歩に誘うなど、一人ひとりの気持ちを大切に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	全職員が生活介護計画書に日々の様子や気付きを記入し、アセスメントの中で検討し、家族の意見を取り入れて、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月ごとに見直しをしている。状態に変化が見られた時は、家族とかかりつけ医と相談の上、状態に合わせて、新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望で、買い物、受診の送迎支援、自宅訪問など臨機応変に支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医のほか、利用前のかかりつけ医を受診できるよう支援している。また、週1回看護師による、健康状態のチェックや薬の指導を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期については、契約時に家族に説明をし、意向の確認をしている。職員は、医師でもある運営者からの指導を受け、方針を共有化している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人の記録は、一定の場所に保管している。職員は、カンファレンスの中でプライバシーについて話し合い確認している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間、就寝時間に規制はなく、一人ひとりのペースに合わせている。利用者の意向により、折り紙、ゲームなどを取り入れたり、散歩に出かけるなど、希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	魚の日、肉の日、テーブルクッキングの日などを設定して、利用者と相談しながら1週間の献立を作成している。利用者は職員と一緒に、食事の準備や調理、盛り付け、後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は時間の規制がなく、希望があればいつでも入浴できる。浴室の床には滑り止めマットを敷き詰めるなど、安全に配慮しており、入浴を楽しめるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を把握し、できること、できないことを見極めながら、一人ひとりの楽しみや趣味を取り入れながら、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関先のベンチでの日光浴や散歩など、戸外に出かけられるように支援をしている。また、タクシーなどを利用し、遠出の外出にも対応・支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は、鍵を掛けることの弊害を理解し、日中は鍵をかけることはないが、夜間は防犯のために玄関は施錠している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て防災訓練、避難経路の指導や夜間想定訓練を実施している。訓練終了後に職員による話し合いにより検証を行い、地域の人達や家族も参加している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量1日1500～1800mlを目安にしており、30分おきに記録し一覧表にしてある。食事量や栄養のバランスは、運営法人の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はバリアフリー仕様が完備され、採光はカーテンで調節し不快な音や臭いはない。居間は一般の家庭と変わりなく、壁に季節感を採り入れた装飾をしており、居心地よく過ごせるように工夫してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くて明るく、使い慣れた日用品や家具を持ち込んでいる。床には、利用者の安全確認のために、事務所で感知できるメロディ-の流れるセンサーを整備している。		

※  は、重点項目。